



SkyDrive – Above and Beyond

空飛ぶクルマ実装に向けたSkyDriveの挑戦

株式会社SkyDrive
エアモビリティ事業開発部



SkyDriveのご紹介

Mission & Vision

Our Mission

100年に一度の
Mobility革命を牽引する。

Taking the lead in the once-in-a-century mobility revolution

Our Vision

空を、走ろう。

Beyond Drive.

会社概要

会社名	株式会社 SkyDrive
代表取締役	福澤 知浩
事業内容	空飛ぶクルマ および 物流ドローン の開発 / 製造 / 販売 / 運航
設立年月	2018年 7月
本社・開発拠点	愛知県 豊田市
その他拠点	東京都港区、大阪府大阪市、愛知県名古屋市
子会社	株式会社 Sky Works（製造）、SkyDrive America, Inc.（米国）
従業員数	220名（2023年10月時点）
資金調達額	150億円超（株式等による累計調達額）



History of Evolution, History of SkyDrive



2018



2019



2019



NBC News (USA)



CNBC Asia (Singapore)

2020

History of Evolution, History of SkyDrive



2023
8

Future



20XX

直近のトピック

出資企業

シリーズB

- ・ 株式会社日本政策投資銀行
- ・ 伊藤忠商事株式会社
- ・ 伊藤忠テクノロジーベンチャーズ株式会社
- ・ ENEOSイノベーションパートナーズ合同会社
- ・ 株式会社大林組
- ・ 株式会社環境エネルギー投資
- ・ STRIVE株式会社
- ・ 日本電気株式会社(NEC)
- ・ 株式会社ペリサーブ
- ・ 三井住友ファイナンス&リース株式会社



シリーズC

- ・ SCSK株式会社
- ・ 関西電力株式会社
- ・ 近鉄グループホールディングス株式会社
- ・ スズキ株式会社
- ・ 損害保険ジャパン株式会社
- ・ 東京海上ホールディングス株式会社
- ・ 豊田鉄工株式会社
- ・ 日本化薬株式会社
- ・ 日本発条株式会社
- ・ ペガサス・テック・ベンチャーズ
- ・ 三井住友信託銀行株式会社
- ・ 株式会社三菱UFJ銀行
- ・ リそなグループ



2025年大阪・関西万博における空飛ぶクルマの運航事業者に選定

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)『未来社会ショーケース事業出展』のうち、「スマートモビリティ万博」における空飛ぶクルマの運航に係る事業者に選定されました。

関連リリース: <https://skydrive2020.com/archives/18259>



提供：2025年日本国際博覧会協会

前列左から)丸紅株式会社代表取締役社長 柿本真澄氏、日本航空株式会社代表取締役社長執行役員 赤坂祐二氏、国際博覧会担当大臣 岡田直樹氏、ANAホールディングス株式会社 社長 芝田浩二氏、SkyDrive 代表取締役CEO 福澤知浩



兵庫県と「空飛ぶクルマ」実現に向けた連携協定を締結

2023年1月に、兵庫県（知事 齋藤元彦）と、兵庫での空飛ぶクルマの実現に向け、連携協定を締結。今後、相互の連携を図り、空飛ぶクルマの開発と社会実装に取り組むことにより、科学技術の発展、イノベーションの創出、地域活性化、産業振興、防災・減災及び2025年大阪・関西万博に向けた機運醸成を推進してゆく。

関連リリース: <https://skydrive2020.com/archives/17430>



大豊産業とプレオーダー契約を締結、四国での空飛ぶクルマ事業の連携開始

香川版官民協議会の構成員である大豊産業と空飛ぶクルマ導入に関する覚書を締結。島嶼エリアを抱える香川県、愛媛県を始めとした四国の移動課題解決や地域活性化が目的。実現に向けあらゆるステークホルダーと共に協力して進めていく。

関連リリース: <https://skydrive2020.com/archives/24228>



現在設計開発中の「SkyDrive式SD-05型」(「SD-05」)デザイン

高松市のサンポート高松で行われた調印式
 左：大豊産業 代表取締役社長 乾和行 氏 右：SkyDrive 代表取締役CEO 福澤知浩

ベトナムにて2社とプレオーダーを合意。合計200機

2022年11月、ベトナムのパシフィックグループ社と「空飛ぶクルマ」最大100機のプレオーダーを合意。
 2023年7月、CT UAV JSC社とも「空飛ぶクルマ」最大100機のプレオーダーを合意。

参考動画：<https://youtu.be/tjLxsEGHxAU> 参考リリース：<https://skydrive2020.com/archives/159799> <https://skydrive2020.com/archives/38385>



サウスカロライナ州において空飛ぶクルマ事業、本格始動

2023年7月、チャーター機運航会社・オースティン・アビエーション社と「空飛ぶクルマ」5機のプレオーダーを合意。サウスカロライナ州および州内の主要空港、運航会社等と協力し、実現可能性の高いユースケースの創出を目指す。

動画：<https://youtu.be/Wc2l34KEi0w> 参考リリース：<https://skydrive2020.com/archives/17458> <https://skydrive2020.com/archives/38383>



(左) 2023年1月25日Electric VTOL Symposium 2023にて米国市場への参入計画と、サウスカロライナ州に本拠点を置いたことを発表
 (右) 2023年7月18日に米国サウスカロライナ州ビューフォートにて行われた、ステークホルダーとのプレスイベント時の集合写真

スズキ株式会社が空飛ぶクルマの製造協力

スズキグループが静岡県磐田市に保有する工場を活用し、空飛ぶクルマを製造。年間製造キャパシティは最大100機。

参考リリース：<https://skydrive2020.com/archives/39590>



SUZUKIとの歩み

- ・ 2022年3月 空飛ぶクルマの事業・技術連携に関する協定締結
- ・ 2022年9月 シリーズCラウンドにおける出資
- ・ 2023年6月 空飛ぶクルマの製造に向け基本合意
- ・ 2023年9月 SkyDriveが製造子会社を設立しスズキの工場を活用

空飛ぶクルマの製造拠点となるスズキグループの工場

NHK連続テレビ小説「舞いあがれ！」にて代表取締役CEOの福澤知浩が、空飛ぶクルマ開発部分の原案に協力。

NHK連続テレビ小説「舞いあがれ！」の3月20日放送回から、代表取締役CEO 福澤知浩が、空飛ぶクルマ開発部分の原案に協力。

関連リリース: <https://skydrive2020.com/archives/18482>



2025年ローンチ予定機体 「SKYDRIVE (SD-05)」のご 紹介

SPECIFICATIONS

最大搭乗人数	3名（操縦士1名＋乗客2名）
機体サイズ（全長×全幅×全高）	約13 m×約13 m×約3 m（プロペラを含む）
駆動方式	12基のモーター・ローター
最大離陸重量	約1,400 kg
最大巡航速度	100 km/h（対気速度）
航続距離	約15 km （段階的に30km、40kmに延長）







SKYDRIVE



新仕様発表、搭乗人数が2名から3名へ、利便性が向上。新名称は「SKYDRIVE」

最大搭乗人数2名から3名へ設計変更することで収益性の高い運航、より便利で楽しい体験を提供することが可能に。新名称は社名と同じ「SKYDRIVE」。2025年に耐空証明を取得、2026年に型式証明を取得し量産およびデリバリーの開始を目指す。

関連リリース：<https://skydrive2020.com/archives/37772>



■ 新技術について
当社が独自開発したドーム型ローターフレームとローターの曲面配面により、機体をコンパクトに保ちつつ、3人乗りが可能となりました。12基のモーターの働きを最適化し、電力効率を高めています。

SD-05 機体性能のアップデートビジョン

周辺技術の進化を受けて、距離/自動運転など機体アップデート可

～2028



～2030



2031～



飛行距離

-15km

-30km

-40km

乗客人数
(除パイロット)

2名

2名

3名

自動運転

なし

なし

自動運転

※アップデートには改修期間と改修費用が必要

万博を契機に、社会実装が進む空飛ぶクルマ

**2025
立ち上げ期**



**万博を機に
空飛ぶクルマを
身近なものとして体験**

万博会場を中心に
大阪ベイエリアでの
運航を開始

将来のクリーン/スマートを
テーマとした都市設計の
先行的な取り組み

**2026～2030
拡大期**



**大阪を中心に
全国各エリアでの
導入が進む**

日常的に使える
モビリティとして
商用運航が拡大

徐々に整備/部品/人材/
周辺サービス等、
産業として領域を拡大

**2031～2035
定着期**



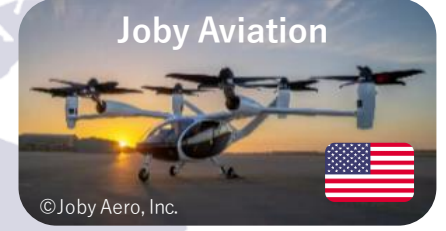
**全国各エリアでの実装
日常のモビリティ
として定着**

自律飛行、オンデマンド運航等、
便利で使いやすいモビリティとして
日常に入り込む

広範なネットワークが形成され、
既存のモビリティとの結節や
補完をしながらより便利なものに

空飛ぶクルマを活用した ビジネスの可能性

世界各国で進む「空飛ぶクルマ」の開発



各社 2025-26年頃から 事業開始を想定
 世界中で約400社が開発
 (実際に人を載せて飛ぶことができるのは十数社)

空飛ぶクルマの特徴と利点

音が静か

ヘリの1/2~1/3の騒音

都市内含む色々なところに 離発着場

垂直離着陸を前提に
ヘリよりも少ない制約
(将来はビル屋上活用も視野)

将来は自律飛行

簡単に操縦可能
自律飛行も可能

ヘリと異なり、都市内含む色々なところに入ってこれる

空の日常利用を可能にする

ユースケース（空飛ぶクルマ）

遊覧、エアタクシー、救急救命の用途が挙げられるが、ヘリの代替的な活用では新しい市場＝社会の新しい価値創造にはつながらないため、新しい社会像を描いてゆくことが必要。



遊覧・観光



エアタクシー



救命救急



一方で、ヘリの置き換えにとどまるのではなく
特性を活かした新しい活用を提起してゆかなければ
「空の移動革命」にはなりえない

ビジネス界では空飛ぶクルマについての語られ方が変わってきている

空飛ぶクルマのビジネスは、徐々に移動課題の解決から、都市課題の解決のツールとしてとらえられるようになってきており、スマートシティやMaaS、GX（Green Transformation）の取り組みとの関連付けも含めて、全体最適にどう寄与できるかという視点でのデザインが開始されている。



ビジネス界では空飛ぶクルマについての語られ方が変わってきている

空飛ぶクルマのビジネスは、徐々に移動課題の解決から、都市課題の解決のツールとしてとらえられるようになってきており、スマートシティやMaaS、GX（Green Transformation）の取り組みとの関連付けも含めて、全体最適にどう寄与できるかという視点でのデザインが開始されている。

都市課題の

誰に対してのどのような価値を設定・提起できるか

どのようなビジネスモデルで誰と組み、どう分配してゆくのか

どのようにリスクをコントロール・シェアするのか

どのようにすれば実装できるのか

専門領域でない空ビジネスのアセットを持ちたくない

ビジネスとしてどのように持続的なもの・収益均衡を担保するか

• 建設系企業

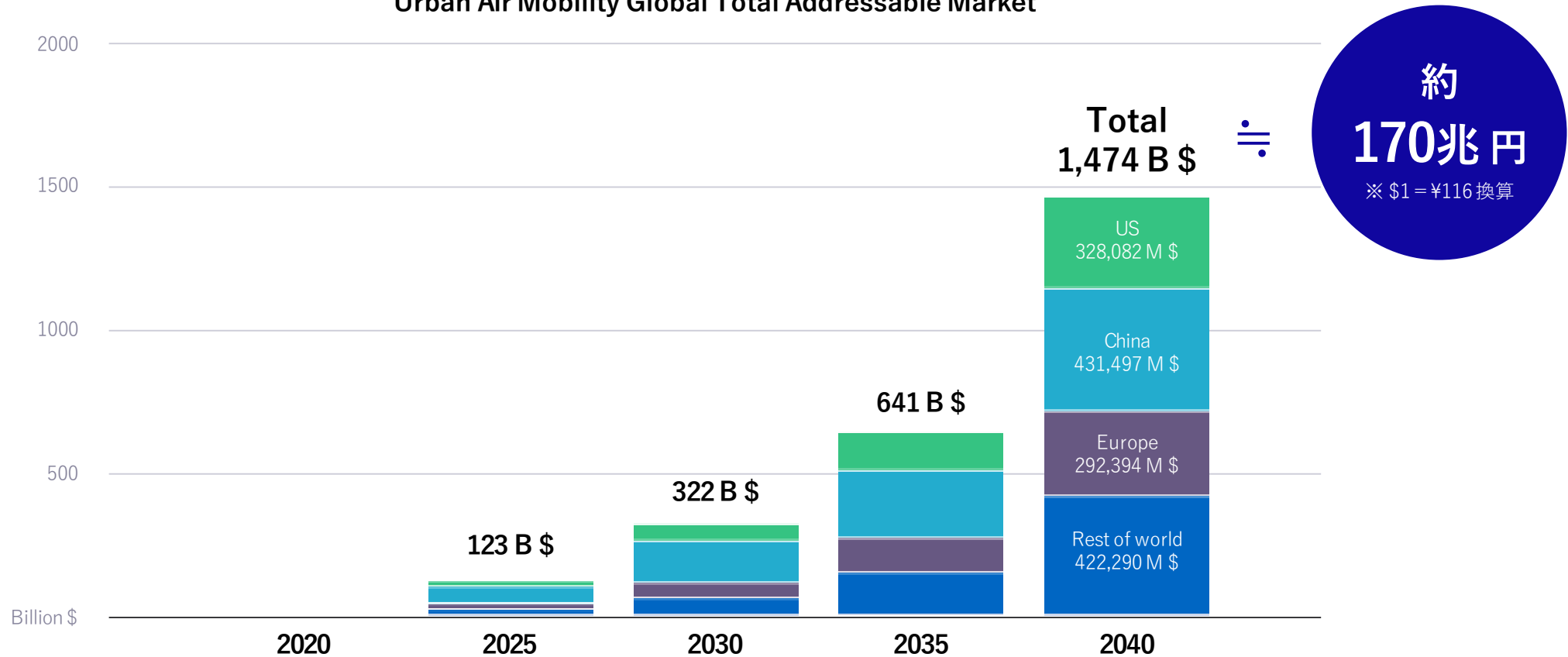
• 自治体（スマートシティ構想）

空飛ぶクルマビジネスの 拡張性

「空飛ぶクルマ」市場予測 (TAMベース/\$bn)

米「モルガン・スタンレー」が出した2018年の予測では、2040年に1.47兆ドル（170兆円）市場まで拡大する見通し

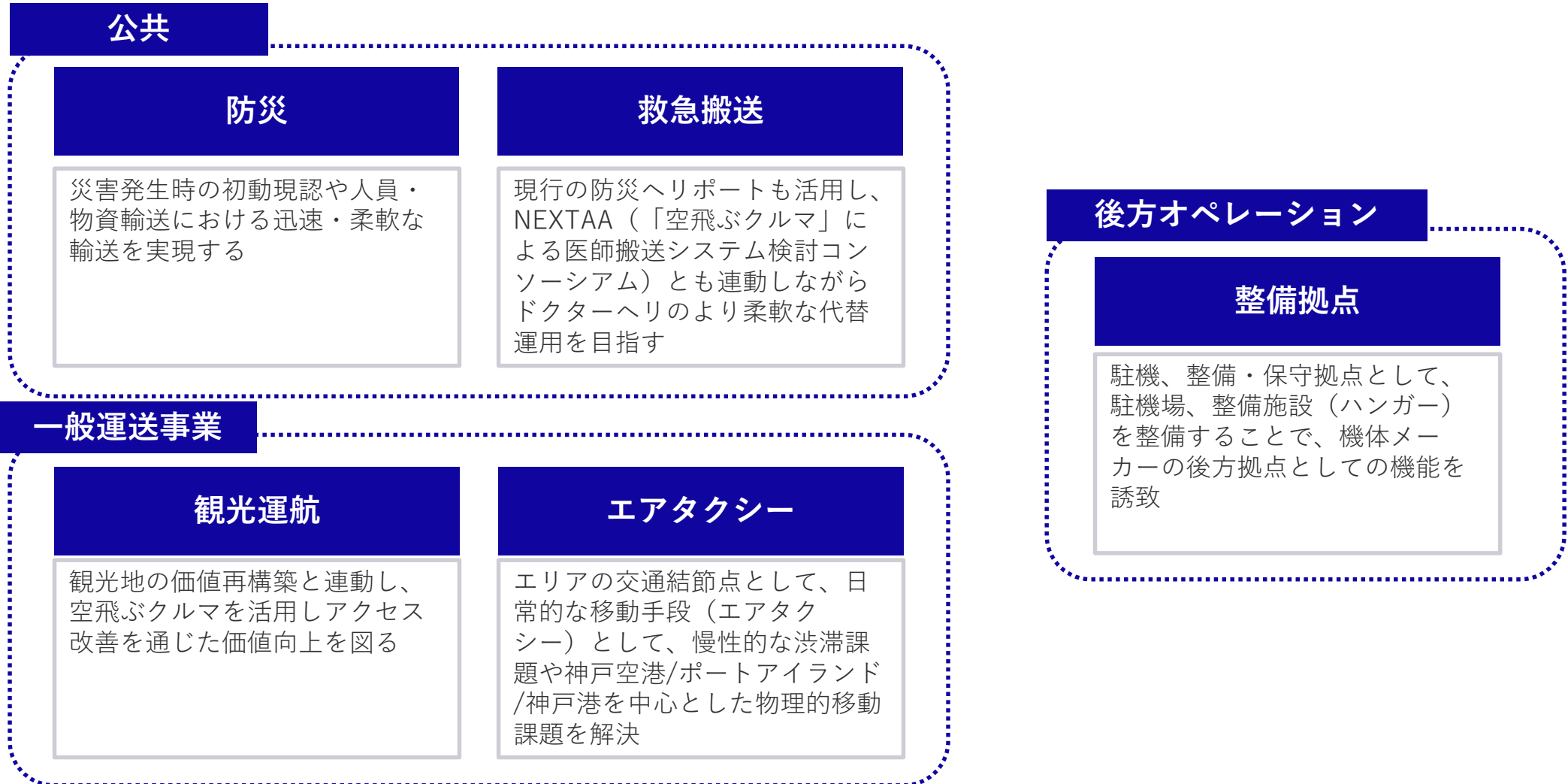
都市エアモビリティの最大市場規模
Urban Air Mobility Global Total Addressable Market



<https://www.morganstanley.com/ideas/autonomous-aircraft>

運送サービスを中心とした事業モデル

兵庫での展開については、エアタクシー用途（運送事業）以外にも、公共用途や後方オペレーション拠点としての可能性もある。



SKYDRIVE 機体構成

- eVTOLのコア技術において欧米のサプライヤーとパートナーシップ (Tier1) を形成
- 構造・モーター技術では、日本企業のノウハウを活用し、国内サプライヤーとのパートナーシップを確立
- サプライヤとして、Tier1への納入先について、新規参入の余地がある (航空機部品の安全認証取得が必要)

AVIDYNE

アビオニクス

Japan Tier1 Manufacturer

ローター

THALES
Building a future we can all trust

フライトコントロールシステム

Japan Tier1 Manufacturer

モーター / ESC

'TORAY'

Toray Carbon Magic

ボディ / ローターフレーム

ep ELECTRIC POWER
SYSTEMS

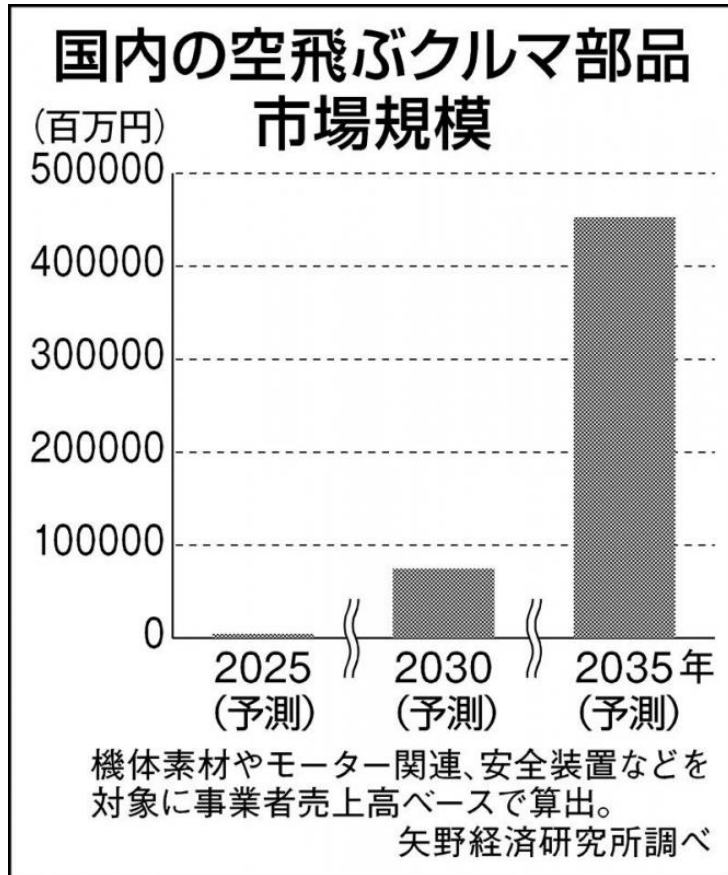
バッテリー / BMS



空飛ぶクルマ部品の国内市場、2030年めど745億円規模に拡大も残る課題とは

(日刊工業新聞 2023年10月05日)

矢野経済研究所調べでは2030年で745億円の部品市場規模が見込まれているが、希望的観測も強く空飛ぶクルマ特有の課題もある



自律飛行や垂直離着陸の特性を持つ空飛ぶクルマは新たな移動手段として、世界的に25年前後での事業化が見込まれている。30年までの5年間で国内部品市場が急速に成長し、電動化をきっかけにした関連部品の技術的な向上も期待される。

一方、矢野経済研究所によると開発をめぐって機体メーカーの資金調達の難航や、素材のコスト高などが課題という。国際的に開発競争が激しくなることから、国の補助金のほか、複数の大学や企業が参画する国家プロジェクトの立ち上げなども必要になりそうだ。

■空飛ぶクルマ特有のサプライヤ課題

航空機部品
認証が必要

初期段階は
数量が少ない

次期モデルは
2030前後？

空飛ぶクルマによる エリア開発とは

空飛ぶクルマはエリアのあたらしい価値を創ってゆく手段

空飛ぶクルマ実装は、あくまでエリア課題解決の手段として位置づけ、検討してゆくことで、社会的大義のもとに各所を巻き込み推進してゆくことができる。

「空飛ぶクルマはあくまでエリア課題解決の手段」

(ゴールは課題解決で、空クルがはまらなければそれで構わない)



空飛ぶクルマを活用したデスティネーション開発（例：瀬戸内）

瀬戸内（高松域）では、1泊20万円クラスの外資高級ホテルの進出も見込まれており、行く目的と移動の体験を連動させようと、空飛ぶクルマを活用したデスティネーション開発が進む。

「しまなみは上空150mから
見た景色が一番美しい」



アイランドミュージアム
ホッピング



1泊20万円クラス
のホテル宿泊
パッケージに
組み込み
40万円で商品化



Ride & Fly

アイランドエコツアー

空飛ぶクルマによるダイレクトアクセスの可能性（ホスピタリティチケット）

スタジアム、アリーナ、コンベンション会場へのホスピタリティサービスにおいて、座席、食事等のホスピタリティを良くしても、渋滞・混雑を理由に来場しないVIPも多い中、ダイレクトアクセスにより来場インセンティブを高めることができ、結果高価格ホスピタリティチケットとして販売できる。

VIPシーティング
(今後の売上の核)



渋滞・混雑を避けられることで、来場者/招待者の来場インセンティブ向上



ホスピタリティパッケージチケットの高付加価値化・高単価化

スタジアム
アリーナ
コンベンション会場
へのアクセス（混雑・渋滞）



まとめ

空飛ぶクルマ実装検討のボトルネック

空飛ぶクルマ実装における意思決定・導入判断に際して、社内・組織での決裁・判断上、以下の様な6つの問いがあり、0→1の市場予見が難しいことから、判断が保留（継続調査という名の先送り）になるケースが多い。



業界を跨いだエコシステムの形成が空飛ぶクルマの社会実装のカギ

広く業界の
総意としての
議論・エスカ
レーション

航路実現性
インフラ・
設備要件
(準備がどの程度必要か)

具体的なエリア
でのエコシステム
形成を通じた
事業計画
・責任
具体議論

業界を跨いだ連携・協業を通じて
導入への様々課題・制約を乗り越える

=Beyond Border

社会受容性

実機の導入を
控え事業設計
や実装具体像
を市場に提示

お問い合わせ先：

株式会社SkyDrive エアモビリティ事業部 国内事業開発

金子岳史 (takashi.kaneko@skydrive.co.jp)

小谷達哉 (tatsuya.kotani@skydrive.co.jp)

Thank you !



youtube